

松井先生とクッチャロ湖の白鳥たち

山内 昇

098-5738 浜頓別町緑ヶ丘

1963年(昭和38年)以来、浜頓別町で国有林の職場を得ながら、クッチャロ湖の自然を見続けてきた。特に白鳥については、一入なものがあった。私は、樺太遠漕村ブッセ湖(現サハリン州ムラヴィエヴォ村ブッセ湖)生まれ。子供の頃から、白鳥やカモなどは身近に慣れ親しんだ動物であった。

クッチャロ湖の自然、特に白鳥との再会が、切っ掛けとなりライフワークにし、この町に骨を埋める決意をした。今年で、74歳と言う人生を振り返ってみると、60年間以上も野鳥との関わり合いを持ってきて、その内36年間もクッチャロ湖の白鳥とのつき合いをさせて頂いた。

一個人では保護など何も出来ない者が、みんな廻りの(町内外の)素晴らしい人達に恵まれ、陰に陽に励まされ、職場の中でも故人になられた方々も含め、日夜問わず応援して頂いた。その中でも、松井繁先生には、公私共に多大なご高配を頂いた。

1970年(昭和45年)頃、松井先生との初めての出会いは湖畔で白鳥に給餌をやっている時だったと記憶している。先生は、未明に飛去(北帰行)する白鳥を撮影し終え、白鳥に給餌をしている私に何をしているのかと訊ねられ、死んでいるので助けていると答えた。種々話をしているうちに日本各地を撮影に訪れているが、各所で色々と苦勞しながら白鳥の保護に関わっている人が多い。私も初対面の先生に自宅までおいで頂き白鳥談義をした。私にはこの出会いから、松井先生との長いお付き合いをさせて頂いた。

そして、日本白鳥の会1973年(昭和48年)設立。松井先生から「いずれも白鳥が好きで好きで堪らない人達ばかりなんだ。もしよければ参加しないか」との話、一、二も無く是非、加入したいと申し入れた。松井先生は「全国各地の白鳥愛護者を一同に会し、保護思想を高揚させようではないか」と各地で白鳥に携わっている人達に呼びかけた。設立された日本白鳥の会が縁で、各地の関係者とも大きく交流ができ、クッチャロ湖も全国の仲間入りができた。

1973年(昭和48年)の秋から何年か、松井先生と共にクッチャロ湖の白鳥の旅を調べた。クッチャロ湖の白鳥の飛び立つ方向を調べ、私の車に松井先生が乗り、天塩、遠別など松井先生の知り合いを訪ねて歩いた。まだ、白鳥の渡りが知られていない時代であり、松井先生と白鳥話しをしながら歩いた懐かしい思い出である。

1980年(昭和55年)、白鳥と鶴の国際シンポジウムを松井先生が先頭になって、札幌市で開催された。日本の白鳥を世界に紹介することが出来たのも、松井先生の功績によるものだ。折しも、私も参加させて頂いた。このシンポジウムが契機となりラムサール条約という、この言葉が理解できるようになった。

この年、ラムサール条約湿地指定に第一号として、浜頓別町が名乗りをあげた。故坂下町長も札幌のホテルでは、それはよいことと是非、参加しようと前向きであったが、地元に戻ってからは農業開発という難題に直面し町民の理解を得られなかった。

日本のラムサール条約第1号指定地は、釧路湿原が決定し後に国立公園となった。それから、9年目の1989年(平成元年)、全国では、三番目としてクッチャロ湖が長年の願望が適いラムサール条約に指定される。国際的に重要な湿地として、地球規模で保護される条約に認められた訳で感無量であった。色々とマスコミ等に取り上げて頂き、国を上げて協力して頂いている。

1993年(平成5年)には、松井先生が南サハリンの白鳥の中継地調査の折に現地以案内をしてくれたサハリン州執行委員会狩猟経営面主任技師、ドリコフ・アンドレイ・イワノピッチ氏を浜頓別町に招き、福祉センターにおいて講演会を開催して頂いた。サハリンの白鳥の状況など野生動物の調査と保護を仕事としているベテラン技師の話をお聞きする貴重な機会を作ってくださったのも松井先生のご協力によるのであった。

1995年(平成7年)、ラムサール条約に指定されたクッチャロ湖畔に環境省が水鳥観察館を建設された。この建物は、湖畔を一望できるカメラも設置されて暖かい室の中から、クッチャロ湖の全景を観察することができる素晴らしい施設で、町を訪れる観光客も大きく増加し、入館者には大変好評を得ている。

この年、念願であったサハリン白鳥ツアーに参加できたのも松井先生のご尽力の賜物である。また、1997年(平成9年)には、長年の夢であったシベリアの繁殖地を調査する機会も与えて頂いた。しかも今までのように各国の多数の人たちが調査・観察をした地域とは違い、シベリアの東北部を流れるレナ川の間地域で、サハ共和国ヤクーツク市より下流の北極圏に近い白鳥の未知の地帯であるとの松井先生からの話だった。残念ながら、松井先生が入院されたため、一緒に行くことは叶わなかったが、この調査に参加させていただいたのも先生のご配慮によるものであった。ご自身のご病気にも関わらず、出発に際してご心配して頂き、帰国後、直ぐにお見舞いに伺うとたいへん喜んで頂いた。

松井先生は、忙しい病院の仕事の合間をぬって、浜頓別町には、春の渡りの際に何度もお越し頂いた。宿をとっているにもかかわらず、白鳥の話で盛り上がり家に泊まって頂く事も何度もあった。日本白鳥の会の研修会も3回開催して頂き、全国に浜頓別町を紹介して頂いた。日本各地の白鳥の仲間もでき、誰もが白鳥を愛する人ばかりで、本当に素晴らしい出会いができた。今日、浜頓別町が白鳥の町としてあるのも浜頓別町において、特段のご助言、ご配慮を頂いた松井先生の功績によるものである。松井先生がいなかったら、浜頓別町は白鳥の町にはならなかった。人生の中で、これほど親しくさせてもらった松井先生に出会えた事に感謝しています。心よりご冥福をお祈りいたします。